

年頭ごあいさつ

“オール舞鶴”で前進です!



舞鶴商工会議所
会 頭 廣瀬 久哲

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、平成27年の新春をご家族そろってお健やかに迎えになられたことと心よりお慶び申し上げます。

新しい年を迎えるにあたり、私は、企業、地域、さらには広く社会全体から「より多くの支持と信頼がいただける商工会議所」を目指して、役員・議員・会員の皆さんと一体となって、全力で取り組んでいく決意を新たにしています。

わが国の経済は、多くの経済指標が改善を示すように、全体としては明らかに回復の道をたどっており、20年続いたデフレを脱却しつつあります。

アベノミクスの本質は、需要を創造するための政策であり、大規模な金融緩和・財政支出・民間活動の活性化により需要は増加し、確かに需給ギャップは大幅に改善されました。

地方においては、中小企業を取り巻く経営環境はまだまだ厳しいという現実がありますが、経済が好循環するかどうかは、経営者が将来に明るさを感じ、積極的に設備投資に踏み切れるかどうかにかかっていると思います。

こうした中で、今、私たちのまちに、夢の広がる“新しい時代”が到来しようとしています。

ことは、京都縦貫自動車道が全線開通し、本市をとりまく高速道路網のミッシングリンクが解消され、京都舞鶴港の機能強化と合わせ、陸路、海路を通じた「人・物」の流れが飛躍的に増えることが見込まれます。

この機会を最大限に活かし、舞鶴のさらなる飛躍に向けて、今こそ、“オール舞鶴”で前進することが求められています。

かつてない大きなチャンスが到来する平成27年度において、私たち経済界がこの最大の好機を活かせるか否かが、大いに問われる年でもあります。

いずれにしても、今年こそ、これまでのデフレマインドから脱却し、持続的な成長を実現していく一年にしていかななくてはなりません。

私たちのまちが力強く飛躍できるか否かは、私たち民間の双肩にかかっていると云っても過言ではありません。

企業活動をする上で、「まち(地域)」はビジネス現場であり、その従業員を含む市民の生活の場でもあることから、「まち(地域)」が元気になることは極めて大切なことです。

商工会議所として覚悟をもって、地域経済の再生に向けて、政策提言を始めとするあらゆる事業活動に全力をあげなければなりません。

私たち商工会議所は、ビジネス現場に近く、中立的な立場で多くの関係者をまとめる力があるという「自らの強み」に改めて自信を持ち、積極果敢に活動に邁進することで、地域の再生ひいては日本全体の底力をあげる大きな原動力になれると思います。

私たちは、自分が暮らし、そして子や孫が何代も暮らし続けられる地域づくりのために、前進する気概と、自信と明るさを持ち、全国514商工会議所の仲間と共に頑張っていきたいと思っています。

結びにあたり、会員企業の益々のご興隆と、皆様方の益々のご健勝・ご多幸を心からお祈りいたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。